

食と緑の基本計画2030

～食と緑が支える豊かな「あいち」をめざして～



食と緑の基本計画2030とは

- 「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」第7条に基づき、食と緑に関する県の施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針
- 計画期間は、2026年度から2030年度までの5年間（2030年度が目標年度）

1 食と緑に関わる現状と“めざす姿”

■ 現状と課題

<現状>

農林水産業は、担い手の減少や生産コストの高騰、気候変動による異常気象の頻発化、自然災害リスクの高まり、さらにはSDGsやカーボンニュートラルの実現といった多くの課題に直面しています。これらの課題に柔軟に対応しながら、農林水産物の安定した生産・供給の確保を図っていくことが求められています。

<課題>

- 未来を担う人材の確保・育成
 - 限られた労働力の中での高い生産力の実現
 - 生産者と消費者の相互理解
 - 愛知県産農林水産物の魅力発信
 - 新たな市場の創出
 - 強靱なインフラ整備や老朽化対策
 - 気候変動に適応した品種や技術の開発
 - 持続可能な生産体系の構築
- 等

■ “めざす姿”

イノベーションを生み成長する農林水産業
県民の理解と参加で支える農林水産業
環境に対応した持続可能な農林水産業

■ “めざす姿”の達成に向けた目標

農業産出額 3,700 億円 ※ 3,551 億円（2024年）
木材生産量 21.0 万m³ ※ 18.7 万m³（2024年）
漁業産出額 410 億円 ※ 402 億円（2023年）
※現状値

2 施策体系と主な取組

5つの施策体系により、“めざす姿”の実現に向けた取組を進めていきます。また、施策の有効性や効果を評価するため、施策体系ごとに重要業績評価指標（KPI）を設定します。

施策体系

1

農林水産業の未来を担う人材の確保・育成

- （1）新たな担い手の確保
- （2）強い農林水産業を担う人材の育成
- （3）多様な人材による労働力の確保

施策体系

2

生産力の高い農林水産業の実現

- （1）新技術・新品種の開発・普及
- （2）生産基盤の強化
- （3）生産・流通体制の強化

施策体系

3

農林水産物の需要拡大と農山漁村の魅力発信

- （1）国内外の需要開拓
- （2）食と緑の理解醸成
- （3）農山漁村の活性化

施策体系

4

安全で良好な暮らしを支える農山漁村地域づくり

- （1）防災・減災対策の推進
- （2）持続可能なインフラマネジメントの推進
- （3）地域の快適な環境の確保

施策体系

5

環境と調和のとれた持続的な農林水産業の実現

- （1）環境負荷低減の推進
- （2）環境変化への対応
- （3）持続可能な生産環境の創出

施策の方向性

将来にわたり安定した生産活動を継続するため、幅広い人材を呼び込むとともに、新規就業者の定着率の向上を図り、農林水産業の未来を担う人材の確保・育成を推進します。

【主な取組】

- デジタルコンテンツ等を活用した情報発信や関係機関と連携した相談から定着までの一体的な支援により、新規就業者の確保・育成に取り組めます。
- 経営体を対象に、雇用管理能力や生産技術、安全意識の向上を図る研修・競技会等を実施し、就業者のスキルアップを支援します。
- 農福連携等、多様な人材の確保に向けたアプローチを強化します。



就農希望者を対象とした相談会



ももの袋かけ指導



あいち伐木競技会



漁業体験研修（底びき網漁業）

【KPI項目】 新規就業者の確保数（農業、林業、漁業）

施策の方向性

生産性と収益性を飛躍的に高めるイノベーションの創出と、生産基盤の整備を一体的に進め、生産力の高い農林水産業を実現します。

【主な取組】

- AIやIoT、ロボット技術等の革新的技術を活用した研究開発を推進するとともに、大学や企業等との連携を強化し、成果の社会実装を加速します。
- 農地・森林・漁場の整備や担い手への集約化、共同利用施設の整備等、安定した生産活動を支える基盤づくりとあわせて、スマート技術や新品種の導入促進、家畜防疫体制の強化等を通じて、持続的かつ高収益な生産体制の構築を進めます。
- 流通体制の強化を通じて、消費者ニーズに応える農林水産物の生産と供給を支援します。



AI病害虫診断技術の開発



閉鎖型採種園における人工授粉作業



畜産クラスター事業を活用して建設した搾乳牛舎



河川堆積砂等による干潟・浅場の造成

【KPI項目】 経営体当たりの農業所得、森林経営計画策定面積 等

施策の方向性

県産農林水産物の付加価値向上や食育の推進、都市地域との交流等を一層深化させながら、県産農林水産物の需要を国内外に拡大し、農山漁村の魅力を幅広く発信します。

【主な取組】

- 6次産業化、県開発品種のブランド化等による高付加価値化を図り、輸出促進、インバウンド需要の取り込み等による販路拡大支援など、更なる需要拡大に取り組みます。
- いいともあいち運動を通じた多様な主体との連携による地産地消の推進や、学校教育や体験活動と連動した食育の推進、モデルとなる施設等を通じた木造・木質化のPRなどにより、県民の農林水産業への理解と関心を高め、消費行動の変容を促します。
- 農泊等を通じた都市住民との交流促進により、地域活性化と関係人口の創出を図り、地域の生産活動を社会全体で支える仕組みづくりを進めます。



「愛きらり」（いちご）



花いっぱい県民運動



木造・木質化した民間オフィス



漁業士等と連携した料理教室

【KPI項目】 主要農産物の市場占有率、6次産業関連施設の販売額 等

施策の方向性

防災・減災対策やインフラマネジメント、生活環境の整備等を一体的に推進することで、安全で良好な暮らしを支える農山漁村地域づくりを推進します。

【主な取組】

- 農業用排水機場や農業用ため池、治山施設等の整備のほか、ソフト対策を含めた防災・減災対策に取り組めます。
- 農業水利施設や漁港、林道等の適切な整備・保全管理を進め、農林水産業と農山漁村地域の強靱化を推進します。
- 農林道や集落排水施設等の生活インフラの整備、里山林の保全、中山間地域等での遊休農地の発生防止などの取組支援を進め、定住促進と地域経済の維持を図ります。
- 森林や農地等が有する多面的機能を発揮させるための間伐の実施や地域の共同活動、住民等との協働・連携による保全活動を推進します。



農業用ため池の整備



農業用水路の整備



間伐等の森林整備



河川の清掃活動

【KPI項目】 農業用排水機場の整備箇所数、森林の多面的機能を発揮させる間伐面積 等

施策の方向性

農林水産業の生産活動に伴う環境への負荷を一層低減するとともに、気候変動への適応や、地域資源の循環利用等を推進しながら、生産活動を安定的に継続できる体制を構築し、環境と調和のとれた持続的な農林水産業を実現します。

【主な取組】

- 省エネルギー技術の導入や化学肥料・化学農薬の使用低減、有機農業の推進、牛のげっぶに含まれるメタンの削減等、環境負荷低減に向けた取組を進めます。
- 気候変動に適応した技術・品種の開発や高温対策設備の導入、干潟・浅場の造成や海域の栄養塩管理等を通じて、生産力の強化・回復に取り組みます。
- 堆肥の広域流通による耕畜連携や主伐・再造林等による循環型林業の推進、カーボンクレジットの取組支援等により、地域資源の循環利用を促進し、経営の安定化と資源保全を図ります。



耐暑性に優れる夏秋スプレーギク（左から、スプレーアイチ夏 2号、3号、4号）



再造林地の状況



栄養塩の不足によるのりの「色落ち」
（左が良質なのり、右は色落ちしたのり）

【KPI項目】 主伐・再造林面積、干潟・浅場の造成面積 等

3 地域重点取組

基本計画の着実な推進を図るため、①から⑦までの各地域において、それぞれの地域特性に応じた重点取組事項を定めました。

地域ごとの取組目標の達成に向けて、さまざまな取組をしっかりと進めていきます。



4 基本計画の達成に向けて

■ 基本計画の推進

県は、農林水産業関係団体、県民などと役割を分担し、協働しながら、また市町村との連携を図りつつ、基本計画に掲げた施策を総合的かつ計画的に推進します。

農林水産業関係団体、消費者団体、学識者などで構成する「食と緑の基本計画推進会議」を開催し、計画の進捗確認を行うとともに、必要に応じて計画の見直しを行います。

■ 基本計画の進捗管理

基本計画の的確な推進を図るため、具体的な施策や事業の取組状況などをまとめたレポートを毎年度作成し、進捗管理を行います。

基本計画に掲げた目標について、毎年度進捗を確認し、評価するとともに、その結果を翌年度以降の事業立案等に反映させていきます。

にせんさんじゅう
食と緑の基本計画 2030
～食と緑が支える県民の豊かな「あいち」をめざして～

2025年12月

愛知県農業水産局農政部農政課

〒460-8501

名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6391（ダイヤルイン）

Web <https://www.pref.aichi.jp/nousei/>



農林水産部門
Webサイト